

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

大野市上庄小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

(2) 協議会の内容

家庭・地域・学校協議会		
家庭（4名） 上庄小学校PTA 代表（父・母各1名）	地域（6名） 上庄校同窓会代表 上庄区長会長 上庄をよくする つどいの会会長	学校（6名） 上庄小学校（3名） 校長・教頭 教務主任
上庄中学校PTA 代表（父・母各1名）	上庄主任児童委員 上庄小中学校校医 上庄保育園園長	上庄中学校（3名） 校長・教頭 教務主任
地域コーディネーター（1名）		上庄公民館館長

- ① 開催予定回数 年3回(6,11,2月)
- ② 協議内容（説明と実践報告）
 - ・学校、家庭、地域の連携に関する取り組みについて
 - ・スクールプランについて
 - ・家庭や地域における児童育成の課題
 - ・地域の安全確保について
 - ・地域行事への参画について
 - ・学校評価について（結果分析と改善策）

(3) 協議会における成果と課題

- ・上庄地区は小学校と中学校の校区が同一であるため、保育園から15年間同じメンバーで過ごしている。それによって生じる課題を、分析・検討し、改善すべきことについて地区として取り組むことができた。
- ・「上庄スタンダード」を毎年見直し、保小中の生活や学習面での連携を図ることができた。また保育や授業の互見をすることによって、年齢による教育方法等の違いを知り、教育の連携をより深めることができた。
- ・積極的に学校を公開し、より地域に開かれた学校づくりを進めていくことができた。
- ・児童生徒のゲームやネット等の実態から、スマートルールについて地区全体として考えなければいけない時代になってきたことを認識することができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

上庄地区の自然、歴史、文化などを調べたり、上庄地区の行事や施設での催しに参加したりすることを通して、ふるさと上庄地区を愛する心と態度を養う。

(2) 活動の実際

①【上庄夏まつりを盛り上げよう】6年生

○上庄地区民が集う上庄夏まつりの意義や内容を知り、地区行事を盛り上げるための方策などを考え、実践した。

- ・「夏まつりについてのお話会」日時：令和元年6月24日 講師：吉村吾一氏（元上庄公民館長）
上庄夏まつりの意義や内容などを元公民館長から教えていただいた。夏まつりを継続していくための苦労や喜びなどを聞き、今度は自分たちが盛り上げていきたいという意欲につながった。その後、誰もが楽しめる夏まつりをするにはどうしたらよいかを皆で考えた。発表ボードを使って学級で意見交流をし、大人も子どもも楽しめるスタンプラリーをすることに決めた。本番に備え、喜んでもらえるための改善策を考えた。
- ・上庄カラーである黄色の生地に学級目標の文字を入れ、オリジナルのTシャツを着用し、心をつにしてお祭りに参加した。



②【麻那姫伝説を調べよう】4年生

- 上庄地区に伝わる麻那姫伝説や地域の自然環境について考え、伝統や自然を守る方策を考えた。
- ・上庄地区には、干ばつから村人を救うために大蛇に身をささげた麻那姫伝説が残っている。これまでの4年生から伝え聞いたことがある麻那姫伝説に関する情報や、学校の図書室にある麻那姫伝説の紙芝居の中から、探求していきたいことを話し合った。麻那姫伝説を通して上庄地区をアピールするために、地域の方（前田光雄氏）をゲストティーチャーとして招き、学習が始まった。
 - ・5月30日、麻那姫伝説を調べるために、由来のある場所に出かけた。麻那姫伝説の内容について詳しく知ったり、上庄地区の歴史や農業の様子から水の大切さについて理解を深めたりした。
 - ・麻那姫音頭への思いや踊り方を地域の方（篠原睦子氏）から学んだ。麻那姫音頭への思いを知った子どもたちは、より素敵に上庄をアピールしたいと、麻那姫音頭の練習に励んだ。
 - ・夏休み中のラジオ体操後に地区の方と一緒に踊ったり、上庄夏まつりで保護者や地域の方々を交えて踊ったりした。夏まつり当日は、やぐらを囲んで小中学生や地元の方々と一緒に踊った。
 - ・麻那姫伝説について学習したことを、市の「結の故郷ふるさと学習交流会」や自由参観日の校内学習発表会で、分かりやすく地域の方に広めることができた。また、麻那姫伝説から学んだことが、地域の自然環境（水）と関わることを知り、自然環境を守っていく方策を考えた。
 - ・麻那姫伝説から学んだことが、地域の自然環境や歴史、文化と関わることを知り、自然環境や歴史、文化を守っていく方策を考えることができた。これからも自分たちにできることを考え、実践していきたいと感じることができた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

上庄夏まつりや麻那姫踊り継承など、地域行事の企画・運営の中心的な役割を担っている。夏まつりを立ち上げた当時の関係者や、麻那姫伝説に関わる地域人材や、上庄太鼓の指導者の連絡調整を行った。

(4) 特に工夫した事項

学年に応じて、地域のよさを地域の方と関わりながら見つけていき、子ども達の主体的な活動になるよう工夫した。6年間で、継続したふるさと学習が進められるように、昨年度作成した単元系統表を活用し、指導者も児童も見通しを持って学習に取り組むことができた。

(5) 成果と課題

今年度は、本事業の3年目であったが、ふるさと学習については、何年も前から継続している学習である。上庄っ子は、上庄で育ち、上庄が育て、そして上庄を育てる大人に成長していると感じている。その中でも上庄夏まつりや敬老会は、上庄地区を盛り上げるための行事である。小学生としてどのような活動で参加できるかを考え、実践することができたことは大きな成果である。自分たちの力で地域の行事に関わることにより、ふるさと上庄地区への思いが強まり、一緒に活動する保護者や地域の方々の姿を見て、将来の上庄地区を背負う自分たちの姿を思い描くことができたと考える。

また、地域の方から、上庄に対する思いを聞く活動を意図的に取り入れたことで、地域に残された伝統や今まであたりまえだと思って見たり聞いたりしてきたことに、深い意味があることを知ることができた。地域の方からの関わりが広がり、子ども達に何を継承していくとよいかを一緒に考えることができたことは成果である。

しかし、行事が週休日開催のため、担当職員は休日を返上して参加している現実がある。今後どうしていくとよいかは大きな課題である。